

13 学業不振や学習不適應の診断は、どのようにするのでしょうか。

当教育センターが行っている教育相談講座の昭和55年度高校受講者を対象に、その当該校39校（普通高20，実業高19）のテスト・バッテリー（テストの組み合わせのこと）の利用状況を調査した結果によると、20校の高校でこれを利用しており、その主な使用目的のうち、学習指導，生活指導，進路指導が上位3位を占め、テスト・バッテリーの組み合わせを見ると、次のように四つの類型が見られます。

知能・性格	（9校）	知能・学力・適性	（4校）
学力・性格	（2校）	知能・性格・適性	（6校）

おとなへの過渡期として、精神的にも、身体的にも多くの問題をかかえる高校生を、内面的，総合的に理解する必要からも，バッテリーの組み方は多面的になっていることが指摘できます。

生徒一人ひとりを正しく理解するためには，観察や面接などによって多面的に資料を求める必要がありますし，また，客観的なデータを得るためには信頼できる諸検査を利用することが大切です。学習習熟度を診断するために必要な資料を得るための，一般的なテスト・バッテリーを編成してみると，次の図11のようになります。

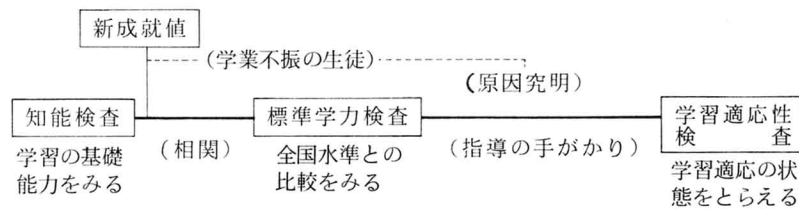


図 11 テスト・バッテリー